

観察の眼 「箕面の森の自然一夏」

2020年7月10日

3班 石川 隆一

◆ 箕面駅～商店街～聖天橋



ツタ（ブドウ科） 花の付く短枝の葉は大きく、葉柄は長い。花の付かない長枝の葉は小さく葉柄も短い。巻きひげの先端が吸盤になり、樹や壁に取りつく



チャセンシダ（チャセンシダ科）
葉の広がりにより清涼感が感じられる



トウネズミモチ（モクセイ科） 今が花期。大きな花序を枝先につける



イヌビワ（クワ科） 雌雄別種。雄果囊の基部の果軸は雌果囊のものより長い



ノキシノブ（ウラボシ科） 葉は革質で濃い緑色をしたシダ。各所で見られる



ビワ（バラ科） ごわごわした硬い質感の大きな葉で、裏に褐色の毛が密生する



アリドオシ（アカネ科） 通称「一両」葉の並び、棘に特徴。今年の果実



イズセンリョウ（サクラソウ科） 雌雄別株。葉腋に若い果実が見られる



ヤブコウジ（サクラソウ科） 通称「十両」。枝先に3～5枚の葉がつく。若い果実が見られる



イロハモミジ（ムクロジ科） 翼果を上向きにつける。オオモミジは下向き



キランソウ（シソ科） 茎は匍匐して四方に広がる。別名「ジゴクノカマノフタ」の呼び名がある

◆ 聖天橋～西江寺裏（ 往復 ）



ネムノキ（マメ科） 2回偶数羽状複葉で羽片がほぼ対生する。小葉の主脈は片側に寄り、先は尖る。枝先に淡紅色の花が見られる。



ナツロウバイ（ロウバイ科） 中国産の植栽樹木。6/30下見時に花が見られた



ハウチワカエデ（ムクロジ科） 親しみのある木は弱り、ひこばえが見られる



コマツナギ（マメ科） 細い枝を四方に伸ばす。総状花序が見られた



コウヤボウキ（キク科） 写真左：一年枝 幅広の卵形葉が互生する。写真右：二年枝 細い楕円形の葉が束生する。花は一年枝の先端につくが、まだ花芽はない。



リョウブ（リョウブ科） 葉は細い倒卵形で枝先に集まる。互生。総状花序



アキシバ（ツツジ科） 落葉低木。花の裂片はくるりと渦状に反り返る



カラスザンショウ（ミカン科） 葉軸や枝、幹に普通棘が有る



タラノキ（ウコギ科） 新芽が伸長している。大型の2回羽状複葉



アマヅル（ブドウ科） 葉は通常は不分裂で、両面とも光沢が強くやや硬い。幼木で深裂する。側脈の分岐がサンカクヅルより少ない



アカシデ（カバノキ科） イヌシデに似るが、葉はやや小型で葉先が長く伸びる



箕面市の環境保全条例による保護樹木**モミ**（奥側）と**ヤマモモ**（手前）



モミ（マツ科） 山側に群生するコシダの中に幼木が数本生育している



ナツハゼ（ツツジ科） 葉柄が短く、葉や枝に毛が多い。本年の果実



ネジキ（ツツジ科） 花とは逆に果実は上向きにつく。樹皮は褐色で捻じれる



シャシャンボ（ツツジ科） 葉腋から総状花を出し、壺状の花を多数つける



ソヨゴ（モチノキ科） 葉は小判状で縁が波打つ。中央の主脈は明るく目立つ

◆ 聖天橋～弁天堂境内



ハエドクソウ（シソ科） 根を煮詰めた汁でハエ取り紙を作ったことによる



オオハンゲ（サトイモ科） カラスビシャクに似るが、作りは全体に大きい



ウツギ（アジサイ科） 株立ち樹形、枝は垂れるように長く伸びる。若い果実



箕面の溪流と**イロハモミジ（ムクロジ科）** 陽光が豊かな方向に枝を伸ばす



コヒロハハナヤスリ（ハナヤスリ科） 胞子穂が棒ヤスリに似ていることから



オニヤンマ ギンヤンマと共に街中の池辺で見られなくなって久しい



ジャケツイバラ (マメ科) 2回偶数羽状複葉のつる性落葉低木。小葉は整った小判型で、葉柄、葉軸、枝などに著しく鋭い棘が有る



オオモミジ (ムクロジ科) イロハモミジと逆に翼果が下向きにつく



ボダイジュ (アオイ科) 果実は苞葉の下にぶら下がる。落葉高木。葉は互生

◆ 弁天堂境内～左岸～姫岩



シラキ (トウダイグサ科) 葉はカキノキに似たやや広い卵形。樹皮は白っぽい



キブシ (キブシ科) サクラに似た葉形で側脈が目立つ。若い果実が見られる



コアジサイ (アジサイ科) 枝先に総状花序を出す。装飾花がない



ヤマコウバシ (クスノキ科) 葉柄が殆どない。葉を千切ると強い香気がある



チャノキ (ツバキ科) 葉は常緑樹としては薄く、革質で表面に光沢がある。皺が目立ち先はわずかに凹む。本年の果実が見られる



ミズタビラコ (ムラサキ科) 枝先に花序を出し、次々と開花する。多年草



コバンノキ (ミカンソウ科) 細長い枝に葉が互生する。本年の果実がつく



ノブキ (ブドウ科) フキの葉に似るが、先がやや尖り、葉柄に翼がある



コアカソ (イラクサ科) 落葉低木。葉は対生、シワが目立つ。葉柄に赤味

◆ 姫岩～右岸～弁天堂石垣



マンネングサの仲間（ベンケイソウ科） 葉は対生、先は丸く基部は柄状になる。花茎は基部が這って、分枝する。枝先に集散花序



ヒメコウゾ（クワ科） 若木や徒長枝で分裂葉が付く。成木の葉は殆ど不分裂葉



ホソバタブ（クスノキ科） 葉はタブノキより細く、縁が波打つ。果実あり



ユキノシタ（ユキノシタ科） 湿った岩などに生える多年草。処々に花が残る



リョウメンシダ（オシダ科） 羽片の切れ込みが繊細で、表裏共よく似ている



ジウモンジシダ（オシダ科） 一番下の羽片が大きく、上部に対しT字につく



ナガバナタチツボスミレ（スミレ科） 閉鎖花が見られた



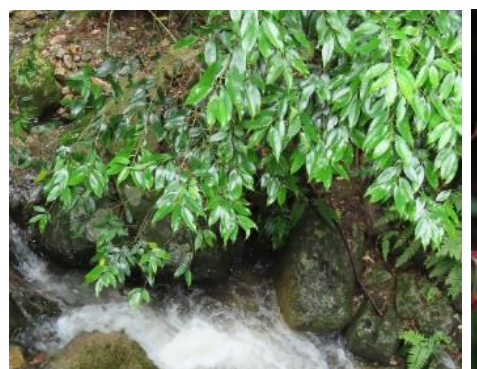
ムラサキシキブ（シソ科） 雄しべ、雌しべは花冠より突き出る。葉は対生



ヤブムラサキ（シソ科） 葉、枝、花序など木全体にふわふわした毛が多い



コツクバネウツギ（スイカズラ科） 葉はツクバネウツギに似るがやや細く、鋸歯は低い。2個の萼片が見られる



ナナミノキ（モチノキ科） 葉は長い楕円形で鋸歯があり、先が長く伸び尖る。シニア自然大学で最も有名な？ナナミノキ



ヌスビトハギの変種（マメ科） 若い果実が見られる。果実は小節果が2個で、くびれが深い。鉤状の微細な毛が密生する



コヤブタバコ（キク科） 茎は太く、茎葉は互生。枝先に淡緑白色の頭花を下向きにつける。頭花の基部に苞葉が5個以上つく。全体に白毛がある。2年草。



カギカズラ（アカネ科） 頂芽と花序が見える。葉の付け根のカギで木に絡む



イタビカズラ（クワ科） つる性木本。3種の中、本種は葉が細く、先が良く尖る。写真右は葉裏、側脈が浮き出る。



キヅタ（ウコギ科） 別名フユヅタ。一見ツタに似るが常緑のつる性木本



ケテイカカズラ（キョウチクトウ科） テイカカズラに似て葉形の異形が多いが、葉裏に短毛が多く、やや古い枝にも毛が多いことが違い。写真右は葉裏

ケテイカカズラの花



ヒメイタビ（クワ科） つる性木本。葉は他の2種より小型で、裏に毛が多いことと、幼形葉にしばしば鈍い鋸歯が出るのが特徴。写真右は、葉裏

ラカンマキ（マキ科） 雌雄別株。写真は雄花。イヌマキより小型で、葉長は短く、密生する